

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 茨木マンション計画	階数	地上7F
建設地	大阪府茨木市永代町	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火	平均居住人員	80 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2020年12月3日
敷地面積	576 m ²	作成者	株式会社CAST-UD一級建築士事務所
建築面積	364 m ²	確認日	2020年12月3日
延床面積	2,093 m ²	確認者	株式会社CAST-UD一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 交通量も多い道路に面するため遮音対策に配慮し、快適性に重視した設計とした。		その他 特になし
Q1 室内環境 居室の窓を大きくし、通風・採光の確保に努め、快適な居住空間を目標とした。 居室のサッシは断熱性の向上を図る。 使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止	Q2 サービス性能 将来の更新を想定し、全室ビニール吹付を採用した。 階高を十分に確保し、設備機器等の更新に備える。	Q3 室外環境(敷地内) 外壁材(タイル)の彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図る。
LR1 エネルギー 日射遮蔽性を図り、断熱性能を高めるよう、バルコニー奥行を広く計画した。	LR2 資源・マテリアル 限りある資源を有効に利用する。 H2O消化剤を使用しない。	LR3 敷地外環境 1階駐車場の騒音を軽減するために壁で囲う設計とした。 隣地に対する影響とゴミの散乱を防ぐよう扉付のゴミ置場を採用した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0124

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)茨木マンション計画							
	建設地	大阪府茨木市永代町							
	用途/区分	集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B+					
①	CO2削減			3					
②	みどり・ヒート アイランド対策			2					
③	建物の断熱性			4					
④	エネルギー削減			5					
⑤	自然エネルギー直接利用			○					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.4	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項	高効率設備を採用した	